2021年3月期決算説明会　質疑応答概要

日時：	2021年5月19日（水）13：00～14：20
出席者：	株式会社日清製粉グループ本社
	代表取締役　取締役社長　　見目　信樹
	常務執行役員　企画本部長　　小池　政志
	執行役員　経理・財務本部長　　鈴木　栄一

Q．市場環境変化への対応力がコロナ前からの課題との話があったが、具体的に教えてほしい。

A．市場環境変化への対応力については、特に国内市場を課題として捉えていた。世の中の変化への対応力が少し弱くなっていたと思っていたところにコロナが発生し、リモートで対応を検討する中で若干出遅れてしまったと感じている。これらの課題を解決するために、販売手法の見直しや、マーケットの見方の細分化を数年かけて整備していきたい。

Q．グローバルでのシステム連携、及びシステム投資額の見通しについて教えてほしい。

A．基幹システムのグローバル統一について、理想の姿があるのかもしれないが、当社はM&Aで取得した会社におけるシステム統一を現在は実施しておらず、それぞれが使ってきたシステムと当社システムを会計で繋ぐことをやってきた。基幹システムのグローバルでの統一は今後のテーマであるが、それを全て統一するかと言えば必ずしもそうでなく、子会社の業種・業態も異なる中、対象をどのように切り分けるのか、またどのように繋げるのかを検討しており、それによって費用が決まると考えている。

Q．営業利益の上期の計画について教えてほしい。

A．上期は国内・豪州の製粉事業や中食・惣菜事業における一定程度の回復を見込んでいるが、国内加工食品事業において前年上期に需要が大きく伸長したことによる拡売費の抑制や、広告宣伝費の支出が下期に集中したことによる反動を見込んでいる。また、米国向け医薬品原薬の出荷に関しては、米国におけるコロナ等の影響により、上期の方が下期より前年比で出荷が減少することを見込んでいることから、上期は（連結計で）前年並みの営業利益となることを想定している。

Q．小麦相場の上昇による業績への影響は。

A．国内の製粉事業では、小麦価格の上昇分は過去から採用してきたルールに基づき取引先に価格改定をお願いしているため、業績への影響はニュートラルとなる。海外の製粉事業も同様である。食品事業に関しては、様々なものの価格が上昇し

ている中、これらの上昇分を自社努力で吸収できるか、それとも取引先に価格改定をお願いせざるを得ないかについて、現在社内で検討している。

Q．米国の製粉事業は回復までに１～２年、豪州の製粉事業は回復までに２～３年の時間がかかる背景、及び今後の成長ストーリーについて教えてほしい。

A．米国は、販売競争激化を受け2019年度に業績が悪化したが、2020年度は業績を回復させることができた。但し、コロナの影響を受け得意先側の環境が変化している中、事業基盤をゆるぎないものにする取組みをもう１年かけて行っていきたい。また、今後の成長に関しても、人口増加に伴う小麦粉販売量の増加や、プレミックス、オーガニック小麦粉、異種穀粉といった特徴をもった製品の取扱い等、製品の幅を広げ成長に向け取り組んでいく。豪州は、買収後１年間で課題が見えてきたタイミングでコロナの影響で需要が減少し課題による影響が増幅し業績が悪化した。また、コロナにより日本から豪州に行く事ができずコミュニケーション等の意思疎通が難しい部分があったが、徐々に改善しており、今期を含め２～３年かけて課題解決に取り組んでいく。また、得意先のバラエティを広げるべきと考え、大手に次ぐスーパーチェーンや、コンビニのような店に原材料を納めていくことも考えていきたい。加えて他国への輸出もポテンシャルがあると考えており、これらの取組みで成長を図っていく。

Q．米国での得意先の工場閉鎖や豪州での取引喪失は、小麦相場の上昇による影響か。

A．米国での得意先の工場閉鎖はコロナによる市場環境の変化が影響、また、豪州はコロナで若干競争が厳しくなっていることが影響していると思われる。

Q．豪州製粉事業は、更なるコスト削減の余地があるか。

A．前年度から取り組んでいる物流改善プロジェクトにより物流・保管コストの削減に加え、原料調達コストの削減余地もまだあると考えている。また、前年度に実施した人員見直しや非効率な生産ライン集約等による効果の発現は今年度も期待でき、生産ラインの更なる自動化にも着手することで、人件費の削減等を進めていく。

Q．中食・惣菜事業の来期以降の利益率の見通しは。

A．自動化による効率化や、付加価値の高い製品の販売を広げることにより、今期計画している利益率を上回る利益率を目指していく。

Q．次期中計の考え方は。

A．次期中計について具体的なことは話せないが、営業利益は前中計で目標としていた300億円を超える水準を目指していく。

以上